日本で3番目の高峰奥穂高に

- 日　　程：８月２０日(木)～２４(月)
- 参　加　者：L 山本(正) SL 澤田(律) 大谷 河合 北村 田羅間(易) 舛賀 待場 三木(勉)
- 行 動 記 録:

２１日(金)：上高地(5：20 着)6：25 発～明神館(7：20 着)7：30 発～横尾山荘(9：30 着)10：00 発～本谷橋(11：30 着)11：40 発～涸沢小屋(14：00 着)

２２日(土)：涸沢小屋 7：10 発～見晴岩 8：05～ザイテングラート取付(8：35 着)8：40 発～涸沢小屋(9：25 着)10：00 発～本谷橋(12：00 着)12：15 発～横尾山荘(13：35 着)

２３日(日)：横尾山荘(6：50 発)～槍見台(7：30 着)8：00 発～横尾山荘(8：20 着)9：00 発～徳沢(10：10 着)10：20 発～嘉門次小屋着(11：20 着・昼食)11：55 発～上高地休憩 12：50～バスターミナル 14：00－平湯 14：30－佳留萱山荘(15：00 着)

２４日(月)：佳留萱山荘 9：00 発～高山散策(10：00 着)11：15 発～道の駅・昼食 12：45 発～加古川駅(19：20 着)

◆◆奥穂高岳に挑戦するも！　　河合

早朝５時過ぎの上高地は雨具を着た登山者でいっぱいです。心配した雨のスタートになる。ここから横尾まで梓川沿いの３時間の道、更に本谷橋を渡りダテカンバ、ナナカマドの横尾谷を上ること３時間余り、標高差７００ｍの涸沢まできつい登りです。沢では雨が激流となって落下していく。登山者の中には小学低学年の子供達がいる。奥穂高を登らせたいとか・・・歩きなれた子供達の後ろ姿に感心する。

涸沢小屋午後２時着。夜行バスで隣にいた若者がここでアルバイトをしていた。爽やかな青年だ。早速、ビールとコーヒーで盛り上がり、晴れ間の涸沢カールをテラスから楽しむ。

奥穂高岳に登りたい。２度目の挑戦者もいるのだ。

夜中に窓を打つ風の音で目覚める。雨男がいたらしく奥穂高登山をあきらめる。出発が５時から７時に変わり、朝食の稲荷弁当を食べる。小屋の弁当はとても美味しい。北村珈琲館がオープンし食後の珈琲を楽しむ。

小屋の周りは高山植物が咲き乱れ、涸沢のナナカマドが紅葉する有名な秋はもうすぐです。

雨ではあるがお花畑のある散策コースを歩くことになり、パノラマコースの雪渓を横切り、ザイテングラートの取り付までいき涸沢小屋に戻る。チングルマの群生がいたるところで見られる涸沢カールを歩いた。

横尾山荘までの下山道は、人気のコースであり土曜日なので混雑し時間がかかった。山荘で入浴後、食前酒のアルコールと三木さんの楽しい癒し系でとても和ませてもらう。

満天の星は大きく輝き。朝は刻々と変化するブロッケン現象が神秘的です。更に、蝶ヶ岳登山道の槍見台へ上り、昨年登った槍ヶ岳を眺めることができ嬉しかった。５分後にはガスがかかり再び槍ヶ岳を見ることはなかっただけに、素晴しいプレゼントを貰いました。

◆◆山は天気次第　　北村

奥穂に憧れて参加したものの、この歳で、しかも雨中での山行、非常に辛いものだった。

せめてもの救いは、山行３日目、横尾山荘を出て、蝶槍登山ルートの途上「槍見台」から見た槍ヶ岳ぐらいなものか。　～　山は　まさに　天気次第　～

嘉門次小屋で食した「イワナの塩焼き」と西糸屋での「アップルパイ」は格別だった。

北アルプスの主峰槍ヶ岳に登る

- 日　　程：８月２０日(木)～２４(月)
- 参　加　者：L 野村 SL 上田 香川 木村 瀧原
- 行 動 記 録：

２１日(金)：上高地(11：20 着)11:45 発～明神(13:00 着)13:30 発～徳沢(14:30 着)14:45 発～横尾山荘(15:50 着)

２２日(土)：横尾山荘 5:15 発～槍沢ロッジ(7:00 着)7:15 発～ババ平(7:50 着)8:00 発～水俣乗越分岐(8:35 着)～天狗原分岐(9:45 着)9:55 発～グリーンバンド(11:00 着)11:20 発～槍ヶ岳山荘(13：40 着)

２３日(日)：槍ヶ岳山荘 4:35 発～槍ヶ岳頂上(5:05 着)5:20 発～槍ヶ岳山荘(5:50 着)6:30 発～千丈沢乗越分岐(7:45 着)7:55 発～槍平小屋(9:35 着)10:25 発～奥穂高岳登山口(12:50 着)13:00 発～新穂高温泉駅(14:56 着)－佳留萱山荘(15:20 着)

◆◆おもいきって挑戦した槍ヶ岳！！　　香川

楽しみにしていた夏山集中山行の発表があった。去年はゆっくリズムで西穂の独標に参加したので、今年はもうひとつ高みを目指そうと思っていたが、今年の５コースの中で、１コース以外はどこも自信がない！そうこうしている内に１コースは、すでに大勢の参加希望があり、これ以上は無理という情報。残るは日数等の関係から奥穂高と槍ヶ岳。槍ヶ岳は山登り経験者にとっては一番あこがれの山。しかし、滑落の危険も伴う。上高地～槍ヶ岳～新穂高温泉まで歩行距離３４キロ、歩行時間(休憩含)約２５時間３０分、累計標高＋２、２１０ｍ　－２、６００ｍ　私は入会４年目だが、体力増進のために入ったが、山行数少なく、いつまでも初心者である。私の様な者が参加していいのか不安だったので、リーダーと上田さんにお伺いしたら、歩行時間は標準タイムの２割増にしているので、槍ヶ岳山荘まで登って頂上までは無理ならそこで待っていてもいいとの事、今のところ女性の参加者が１人という事だったので、同期のＫさんと一緒に参加を決めた。

【１日目】８／２１(金) 上高地～横尾山荘

姫路駅始発、６：００の新幹線のぞみ１０２号に乗車、名古屋で特急ワイドビュー飛騨１号に乗り換えた。高山からはジャンボタクシーで上高地バスターミナルへ到着。快適な上高地までの往路だった。生憎？予想通りの雨、大勢の登山と観光客であふれているなか、合羽を着てストレッチをして出発、リーダーの後ろを歩く。合羽を着ているが、気温２０度位と思われ、

気持ちよく梓川を右手に見て自然探勝路をまずは明神池を目指す。

１時間程で穂高神社奥宮に到着。山行の安全を祈願し、明神池も散策、自然の水の庭園にうっとりしました。徳澤園まで、今度は梓川の清流を左手にゆるい登りになる。広い河原にケショウ柳の大木がどっしりと立っている。徳澤ロッジは改装中で閉鎖していた。徳澤園で小休憩、まだ雨は降ったりやんだり、右手にいけば蝶ケ岳への険しい道があるらしい。ホタルブクロ、キリンソウなどに癒されながら１５時５０分横尾山荘に到着、お風呂で温まり、ビールで乾杯。明日の朝食用の紙袋を受け取り、(パン３個　ベビーチーズ　ジャム　ソイジョイ　野菜ジュース)(２食分いけそうだが、少々カサバル！)２段ベッドで２０時前に消灯。

【２日目】８／２２(土) 横尾山荘～槍ヶ岳山荘

横尾山荘を５時１５分に雨の中を出発、うっそうとした樹林帯を歩く。槍沢ロッジ辺りから雨が激しくなった。しばらく登ると雪渓が出てきた。下から溶けて沢に流れ込む。

なかなかコーヒータイムの場所がない。それでも少し開けたグリーンバンドで、リーダーがお湯を沸かしてくれて、傘をさしてのコーヒータイム、元気が出てきた。樹林は薄くなり明るい谷になる。トリカブト、シナノショーマ、チングルマ，トウヤクリンドウ・・・可憐な花に励まされる。徐々にガレ場ザレ場の急登が続く、しかし槍ヶ岳の方を見てもガスで何も見えない。途中、槍ヶ岳を開山した幡隆上人の岩穴があった。

大きな石に白いペンキで１、５００ｍと書いてある。これは槍ヶ岳山荘までの距離らしく頼りになる。この辺りにくると道らしいものはなくジグザグに岩石に○や↑の印があるガレ場の急斜面を登っていく。殺生小屋が見え隠れしてきたが、立ち寄る元気はない。もう少しで槍ヶ岳山荘、長時間の登りと合羽から浸み込む雨で体が冷え、疲れ切っていて２００メートルごとに休憩をした。一瞬ガスが流れ、突然槍の穂先と目指す山荘が姿を現した！キャースゴーイ！歩き始めて約９時間、這い上がるように槍ヶ岳直下の山荘に到着。

涙が出るほど嬉しく、皆で喜びあった。お天気が回復したので、穂先に登る人たちが良く見える。しかし今日は、私たちは穂先には登らず、明日の早朝に日の出の前に登ることに決定。山荘前からの山々の絶景を堪能した。常念岳～蝶ヶ岳～穂高連峰～、そして、それぞれの山小屋もはっきり見る事が出来ました。(上田さんが教えて下さいました。)

【３日目】

８／２３(日) 槍ヶ岳山荘～山頂～新穂高温泉

３時起床、お天気良好、ヘルメットをかぶりヘッドランプをつけ、ストレッチをしていざ穂先へ！薄暗い中すでに多くの人が登り始めている。私たちも岩場を三点確保で登って行く。　まずは長い梯子、岩場、短い梯子、次は鎖、思ったより恐怖感はなかったが、岩場の足をかける場所が分かりにくかった。山頂の小さな祠の前でひとりずつ写真を撮ってもらい、ご来光を待つ。すでに山頂はすし詰め状態。雲海の向こうに光が差してきた。

すばらしい光景に感激！すぐさま山荘に下りて行った。これからは、ひたすら新穂高温泉への長い下山を覚悟した。

少し降りたところで、来た道を振り向くとガスの間に虹が出て、良く見ると虹が丸く輪になっていた。反対から登ってきた人がブロッケン現象だと教えてくれた。どんどん下って行き、槍平小屋で休憩、穂高平小屋で冷えた完熟トマトにお塩をかけて食べた。

甘くておいしい。１４時５６分最終の計画書通りの時刻ぴったりに新穂高温泉駅に到着。北アルプスの主峰 ３、１８０ｍの槍ヶ岳ありがとう。同行の皆さまに感謝です。

Ⅳ 常念岳、蝶ケ岳

- 日　　程：８月２０日(木)～２４(月)
- 参　加　者：L 須増 SL 佐々木 赤木
- 行 動 記 録：

２１日(金)：一の沢登山口(8:15 着)8:55 発～山の神 9:10 発～大滝ベンチ(10:00 着)10:10 発～烏帽子沢出合 10:35 発～笠原沢 11:20 発～最後の水場 12:55 発～常念小屋(14:00 着)

２２日(土)：常念小屋 7:20 発～常念岳頂上(8:35 着)8:40 発～２５１３のピーク 9:15 発～お花畑 10:30 発～蝶槍 12:45 発～横尾分岐 13:00 発～蝶ヶ岳ヒュッテ(13:30 着)

２３日(日)：蝶ヶ岳ヒュッテ 6:40 発～蝶ヶ岳 6:45 発～長塀山 7:25 発～徳沢(9:40 着)10:00 発

◆◆雲表の槍穂高連峰　　赤木

８月２１日、登山口のヒエ平はすっきりした感じのいい処だ。小雨交じりで一応合羽は着て３人で出発した。

一の沢に沿って登山道を登って行く、大滝ベンチではオコジョが飛び出し、横の沢で釣り人がイワナを釣りあげるのを見た。

雨の沢沿いの道には少々うんざりするが。胸突き八丁、最後の水場を経て稜線に出る手前で４羽の雷鳥に出会ったりして、雨の中を無事に常念小屋に着いた。

８月２２日、今日も雨の中出発した、常念岳は激しい登りが待っていた。やはりアルプスの山だ、ガスの前にピークが見え、そこかと思うとまた次のピークがあらわれ、２～３回繰り返しながらやっと狭い山頂に着いた。岩の間に小さな祠があった。

山頂からの下りはかなり緊張した。大きな岩の重なったゴロ場や、ガレ場が続きヒヤットする処もかなりあり、ガスの中でなかなかルートも判りにくい。

かなり高度を下げ樹林帯に入る所にお花畑があり、紫のきれいなトリカブトの花が咲いていた。樹林帯では小さな虫に悩まされ、どこまでも顔の前を飛び回りながらずっと付いてくるから、うっとうしいこと甚だしい。

樹林帯の登り下りもかなり厳しかった。森林限界付近の登山道に、這い松の実が齧られたのが落ちていた。不審に思いながら行くと、ガスの中、岩の上になにか動くものがいる。よく見ると、サルの群れが悠然と雨の中からこちらを見ていた。

蝶槍から、蝶ヶ岳ヒュッテに着いたころ、なんとか雨はあがった。

目の前に槍穂高連峰があるはずだが、ガスや雲が重なり全然見えない。しかし今来た常念岳はもう、はっきり姿を現し始めている。どっしりした三角形の姿は、雨のなかの激しい登高や

下りの厳しい山とは思えないくらい優しげで優雅に見えた。

稜線が、白く湧きあがったり巻いたり流れたりする雲の間から姿を現し始める。南の明神や前穂は大分はっきりしだしたが、それより北の峰々、特に槍本峰や穂高の盟主奥穂高はなぜか雲が巻き付き、なかなか姿を見せない、が、しばらくすると、とうとうその全貌を現してきた。

まるで襖に薄墨で書きなぐった水墨画。険しく高く、すごい迫力だ。黒々とした稜線を龍のように白雲が踊り狂う、ガスが湧きあがる、パッと流れて急に明るくなる、槍や奥穂もその全貌を惜しげもなく見せ、その穂先をとがらせてくる。

強烈な太陽のエネルギーを受け暴れ回っていた雲やガスは、北穂の稜線付近を金色に染め、日が沈むと急に勢いが消え梓川本谷に重なり合い留まってしまった。

薄墨はどんどん墨を濃くし稜線は影絵と化していく。槍ヶ岳、大喰岳、中岳、南岳、北穂高岳、涸沢岳、奥穂高岳、前穂高岳と、３０００メートル以上の峰が連なり、明神岳が南の上高地に切れ込んでいる。南岳と北穂の間に切れ込むあの大キレットの落ち込みはどうだ。

山小屋の夜は早い、７時にはもういびきをかいている人もいる、寝床を抜け出し、外へ出てみると、満天の星が冴えアルプスの空に輝きわたっていた。蝶の頂上付近にサソリ座が大きくＳ字に毒針を曲げ、アンタレスが紅く光っている。カシオペア、北斗七星が横たわり、天の川がうっすらと流れ、ベガとアルタイ、デネブの夏の大三角形が多くの星の中にひと際輝く。星明りの槍穂高連峰を見れば、稜線が薄く浮かび、槍の肩の小屋、北穂高小屋、穂高山荘の３箇所の山小屋の灯りが輝いていた。長い間見ていたが寒くもなかった。

朝早く、外で空を見ながら日の出を待つ、五時過ぎ、雲海の中が少しオレンジ色に変わって、５時１７分、雲の上に光が漏れだした。一気に山の色が変わっていく。常念岳は光を浴びて輝き、槍穂高は薄く緑に色を付け墨絵からパステル画か水彩画に変わっていった。あの平面的な高さや迫力には少し欠けるが、立体的に尾根や谷の地形が、雪渓やガレ場を薄緑の中にばらまき、パノラマのように広がって見える。

槍から派生している東鎌尾根は弓なりに意外なほど高度を下げて、槍沢は雪渓やガレ場が薄緑の中を上へ上へと細く延びて槍を目指している。

中岳はきれいに尖り、北穂は砦のようキレットから起き上り、涸沢岳、奥穂は目の前で堂々と聳え前穂の正面フェイスは思いきり奥又白に落ち込んでおり、北尾根が迫っている。本峰からピークを連ねどんどん高度を下げ、最低のコルから再び高度をぐんと上げラクダの瘤のような屏風の頭から屏風岩の大岩壁を横尾谷に落とし込んでいる。その奥の涸沢は厚い雲に覆われ、上部にザイテングラードの急斜面をのぞかせている。

明神岳へと続く主稜線が上高地に落ち込むその奥に、焼岳が黒くどっしりした姿を見せて、遠く遥かに乗鞍が見え御嶽が噴煙を上げるのが霞む。

名残は尽きないが蝶ヶ岳から、長塀尾根を徳沢に降りる急で長い下りだが、どんどん降りて行く。かなりきつい。

徳沢からは、爽やかな樹林の平坦な道を上高地へと梓川に沿って３人でゆっくり歩いて行った。